京都市の意見及び国・機構からの回答

【京都市の意見】

京都市は、これまでから、京都市内を通るルートとなる場合は、①地下水への影響、②建設発生土の処分、③工事車両による交通渋滞、④京都市財政への影響、⑤文化・歴史的建造物等への影響の５つの懸念・課題について、市民の皆様の体感的な御理解、御納得が不可欠と申し上げている。

本日は、地下水について、本年３月に公表された調査結果の概要について、説明をいただいたものと認識。

地下水については、専門的な内容であるため、京都市としては、今後、専門家の知見もいただきながら、改めて意見を申し上げていきたいと考えているが、本日の説明内容に加えて、6/30 の与党ＰＴのヒアリングにおいて本市から説明した内容についても、改めて回答をいただきたい。

また、地下水以外の懸念・課題への対応についても、今後、しっかりと説明を行っていただく必要があり、これらは、沿線自治体で共通する課題も多くあることから、引き続き、こうした場において、丁寧に説明を行っていただくことが必要と考えているが、いかがか。

【国及び鉄道・運輸機構からの回答】

- 6/30 与党 PT ヒアリングにおいて、京都市から懸念について具体的な内容を示されたと認識している。
- 今日の説明会は、今年３月に公表した地下水委員会の報告書の内容を中心としており、マクロなスタンスでの説明かと思っている。
- もう少し、現地に即してということであれば、個々の井戸に対するミクロな影響などについての説明も今後必要になってくるかと思っている。そのために、必要な井戸の調査などもお願いしていく部分もある。今後、説明会などの様々な機会を通じて、具体的な内容について、丁寧に説明を重ねていきたい。
- 京都市において、専門家の知見をいただいて意見をいただくとのことであるが、我々としても、必要であれば、データの提供を行うなど、積極的に対応していきたいと思っている。
- 地下水のみならず、様々な施工上の課題があると懸念されていることは認識しており、複数の自治体間で共通するものもある。それに対し、沿線の自治体に丁寧に説明をしていくことが、非常に重要と考えている。
- 地下水以外の様々な課題に対しても、今後、どのような形で開催していくか、皆様から御意見・御要望をいただきながら、また、京都府ともよく相談しながら、積極的に対応してまいりたい。